

■ 総合科目（学士基盤科目）

社会基礎学Ⅰ

科目番号 1226151

■ 総合科目Ⅲ（学士課程3・4年次生対象）

社会基礎学Ⅱ

科目番号 1G26031



世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

受 講 案 内

2020



世界に挑む産業界トップリーダーによる 大学院アドバンスト・ディスカッションコース

■ 大学院共通科目

テクノロジーとグローバルで拓く未来

科目番号 0A00402

■ 大学院共通科目

流動化する世界とこれからの日本

科目番号 0A00401

筑波大学
日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

開設趣旨

筑波大学とJAPICとの連携協定に基づき、本科目を開設します。

世界では、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT等、先端技術の進歩などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行きかっています。同時に国は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、この講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学を探究し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

具体的には以下の6分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。

- ①「グローバル化と地域の日本のあり方」、②「政治・政策」、③「安全保障・憲法」、④「経済・産業」、⑤「環境・資源・エネルギー」、⑥「世界／アジア」(順不同)

・1226151「社会基礎学Ⅰ－「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成:世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義」(総合科目(学士基盤科目)として春学期開講)

・1G26031「社会基礎学Ⅱ－「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成:世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義」(総合科目Ⅲとして秋学期開講)

また、大学院学生を対象に、産業界のトップリーダーによるアドバンス・ディスカッションコースを開設します。最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉え、議論を行い、深く考察していきます。

・0A00402「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる大学院アドバンス・ディスカッションコースⅢ－テクノロジーとグローバルで開く未来」(大学院共通科目として春学期開講)

・0A00401「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる大学院アドバンス・ディスカッションコースⅠ－流動化する世界とこれからの日本」(大学院共通科目として秋学期開講)

【総合科目の開設目的】

総合科目(学士基盤科目):初年次生が、大学という新しい学習環境に適応し、自律的にキャリア形成を始めることを支援する科目です。さらに、学問のあり方や自身との関わりについて、幅広く多様な視点から考えることにより、専門分野へ進むための確かな知的基盤を整えます。

総合科目Ⅲ:1・2年次における基礎、専門基礎教育と2・3年次における専門教育をベースに、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を涵養することを目的としています。



学生に期待すること

「社会基礎学」というこの科目名からの印象は、例えば社会系の講義だろう、自分にはあまり関係がなさそうだな、というものではないでしょうか？しかし、この講義に出席してみると、その印象は徐々に変わり、講義の終盤には、自分の専門分野の社会を通してのかかわりがおぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づきます。2019年度以降に入学する学士課程の当初に受講する総合科目「学問への誘い」では、各自の専門分野への理解を深めるとともに、そこから広がる様々な分野にも複眼的かつ俯瞰的な眼を養い、その重要性を説いています。「社会基礎学」は、社会の側から様々な学問への気づきを喚起しようとしています。人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップリーダーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながらお話しいたします。「グローバル化とは何か」「日本国内におけるグローバル化とは」「地域社会の発展に必要なもの」を中心に据え、論を展開します。本講義の受講により様々な課題に強い関心を持つとともに、グローバル化と地方創成の時代に果敢にチャレンジし、活躍できることを期待します。

JAPICについて

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project-Industry Council : JAPIC) は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在39業種約224社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。



JAPIC 会長
宗岡 正二
MUNEOKA SHOJI
日本製鉄(株) 相談役

【大学院共通科目の開設目的】

大学院生が多様なキャリアパスや様々な社会的要求に対応できる柔軟性と選択性を身につけ、時代に即した社会の需要に対応できる「豊かで逞しい人間力」を強化することを目的として、「知識の教授のみに偏らない高度な大学院教育の実現」を基本方針に、高邁な意識や高い倫理観を醸成しつつ、さらに能力やスキルの向上に資する「大学院生の基盤能力の向上」を担保するために大学院共通科目を開設しています。



春C 1226151

社会基礎学Ⅰ－「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教学デザイン室長) 他

第1回

7/4
【土】

9:50~18:00

【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針

徳永 保 *Tokunaga Tamotsu*

帝京大学 特任教授

プロフィール 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。2015-2017年筑波大学執行役員兼務。2020年から帝京大学特任教授。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)などを立ち上げた。主な著書に「グローバル人材育成のための大学評価指標」(2011)、「現代の教育改革」(2019)などがある。

坪内 孝司 *Tsubouchi Takashi*

筑波大学教員 システム情報系教授 / 教学デザイン室長

プロフィール 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。専門はロボット工学。特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が主テーマ。2018年より教育企画室長、2020年より教学デザイン室長。本講義もこの室長関連の仕事で関与している。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダーの演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い

三浦 潔司 *Miura Kiyoshi*

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 新日鐵(現 日本製鉄)に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。



【パネルディスカッション】【第1部】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

【パネルディスカッション】【第2部】

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

吉村 麻央 *Yoshimura Mao*

パネリスト

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

プロフィール 早稲田大学在学中、米コロンビア大学に短期留学、多業種のアルバイトを経験し、政策担当秘書資格試験に合格。卒業後、石破茂事務所勤務、在職ついに24年。国務大臣防衛庁長官秘書官昇任中、公務海外出張を多数経験。陸上自衛隊予備自衛官として15年間登録(現在退職)。趣味は読書(特に推理小説)、釣り(海川問わず)、海外ドラマ、アニメやゲーム、庭いじりなどなど。

太田 誠 *Ohta Makoto*

パネリスト

21世紀政策研究所 事務局長

プロフィール 1986年 経団連事務局入局。国際経済本部調査役、産業政策本部次長、国際協力本部副本部長を経て2012年より現職。この間、産業政策、国際物流政策、中国・韓国など北東アジア諸国・ロシアとの産業協力を担当。1991年~95年 ソウル駐在。現在、産業界でのリベラルアーツ活用方策を検討中。専門は李氏朝鮮の外交思想と行政過程論。2014年 博士(学術/東北大学)。

徳永 保 *Tokunaga Tamotsu*

パネリスト

帝京大学 特任教授

プロフィール 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。2015-2017年筑波大学執行役員兼務。2020年から帝京大学特任教授。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)などを立ち上げた。主な著書に「グローバル人材育成のための大学評価指標」(2011)、「現代の教育改革」(2019)などがある。

三浦 潔司 *Miura Kiyoshi*

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 新日鐵(現 日本製鉄)に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。

講義概要 グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

貢献できる輝く人材の育成



総合商社とサステナビリティ

島崎 豊 *Shimazaki Yutaka*

丸紅株式会社 顧問

プロフィール 1982年丸紅(株)入社。海外におけるインフラ施設の建設および投資事業に従事し、特に上下水等の水ビジネスを先駆けて推進。財界・社外活動のサポート業務や社業の広報活動に従事。日本創生委員。日本秘書協会理事。東京都出身。学生時代：体育会グランドホッケー部所属。趣味：スイミング、ゴルフ。

講義概要 「環境、社会と共存するシステムをいかに築くか」というサステナビリティへの対応は、いま、地球規模での優先課題になっている。環境問題や人権への配慮などサステナビリティに対する姿勢が企業を評価する際の重要な判断基準になりつつある中、世界で展開する総合商社がどのようにサステナビリティと向き合っているのか、そのビジネスを通じて取組を紹介する。

国際協力の考え方、およびその実践を通じたグローバル人材の必要要素について

坂本 威午 *Sakamoto Takema*

(独)国際協力機構(JICA) 中東・欧州部長

プロフィール 1989年、海外経済協力基金(JICA前身)に就職。2018年8月から現職。この間、開発途上国への政府開発援助(ODA)業務に従事。東アジア・南アジア・中東等幅広く担当した他、運輸・情報通信分野、広報、国会対応、組織運営等多様な実務を経験。在外経験は、中国、イラク、インドと10年超。ドアはノックしなければ開かない、が持論。東京大学法学部卒。福岡県出身。

講義概要 日本国内における課題も多々ある中でも日本はなぜ遠い国への国際協力を推進しているのか、そして、どのような思想・理念で国際協力を行うのか。また、国際協力の実践を通じて、グローバル人材として求められる要素はどのようなものが重要と考えられるか。こういった点について、具体的な事例も紹介しつつ、受講者とともにインタラクティブに議論し、思索を深める。

第1回

7/4

[土]

9:50~18:00

自然資本を活用した地域経営

石崎 晶子 *Ishizaki Akiko*

パシフィックコンサルタンツ株式会社 社長室 兼 戦略推進部

プロフィール 2003年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社、環境・エネルギー分野の部署にて環境関連計画・地球温暖化対策・生物多様性分野のコンサルティング業務に従事。その後、新事業企画、市場創出に関わる部署に異動、地域創生やプロジェクト化支援等に関わり、2018年より現所属。出身は岡山県。趣味は仕事と子育て(3人の息子を追い回す)。座右の銘は「死ぬこと以外はカスリキズ!」

講義概要 私たちの生活、企業、地域は、自然資本と生態系サービスなくしては存続できない。自然資本をどのように活用するかが、人口減少が進む地域では、地域創生の切り札のひとつになっている。自然資本という「元手」をてこに、地域を個人・企業・自治体という個で見るのではなく一つの家計と考え、地域を「経営」をすることが重要である。地域の現状と諸課題を紹介しながら、皆さんと共に持続可能な地域経営について考えたい。

モビリティ革命とMaaS (マース)

牧村 和彦 *Makimura Kazuhiko*

一般財団法人 計量計画研究所 理事 兼 研究本部企画戦略部長

プロフィール 1990年一般財団法人計量計画研究所(IBS)入所。東京大学 博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事。将来のモビリティビジョンを描くモビリティデザイナーとして活動。代表的な著書に、「MaaS ~モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP)」、「バスがまちを変えていく~ BRTの導入計画作法(IBS出版)」等多数。

講義概要 モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。本講義では、MaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

第2回

7/11

[土]

11:00~17:50

グローバル化と戦争

沢井 俊光 *Sawai Toshimitsu*

共同通信社編集局総務

プロフィール 1985年共同通信社入社。神戸支局、横浜支局で主に事件取材。95年から海外特派員。ナイロビ支局でアフリカの紛争、飢餓、難民問題などを、バンコク支局でアジア地域統合、ミャンマー民主化などを、イスラマバード支局で対テロ戦争などを、ワシントン支局で米大統領選、イラク戦争などをそれぞれ取材。外信部長などを経て2019年から現職。東京都出身。趣味はテニス、読書。

講義概要 20世紀に2度の世界大戦を経験し、莫大な数の人が犠牲になったにもかかわらず、21世紀になった今も、世界各地で戦争は続いている。冷戦終結後、一気に進んだグローバル化によって各国の経済的結びつきが強まった結果、戦争の性質は変わったのか。「反グローバル主義」を掲げるトランプ大統領の下で進む「米中新冷戦」が本格戦争に発展する恐れはあるのか。戦争取材の経験を交えながら、グローバル化と戦争の関係を考える。

都市開発とエリアマネジメントの実践 ~日本橋エリアを事例として~

雨宮 克也 *Amemiya Katsuya*

三井不動産株式会社 開発企画部 開発企画グループ長 兼 環境創造グループ長

プロフィール 1987年4月、三井不動産(株)入社。長年、開発プロジェクトの企画、事業推進に従事してきた。主な担当プロジェクトにららぽーと横浜や東京ミッドタウンなどがある。また並行して、鑑定企画室、スマートシティ企画推進部、三井不動産レジデンシャル(株)を兼務し、都市計画や基盤整備の分野で幅広く業務を行っている。趣味は街歩き(国内外どこでも)、読書。慶大経卒、東大院修了。

講義概要 東京都心部では地域価値向上のための「エリアマネジメント」が積極的に展開されている。これらの活動にはそのエリアでの都市開発を主導する民間デベロッパーが中心的な役割を担い、地域社会と連携しながら進めている場合が多くみられる。今、エリアマネジメントに何が求められ、今後どのように展開されていくのか。日本橋エリアを事例として取り上げ、これからの都市開発とエリアマネジメントの展望と課題について皆で考えたい。

秋AB 1G26031

社会基礎学Ⅱ－「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教学デザイン室長) 他

第1回
10/3
【土】
13:30~16:30

【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い

三浦 潔司 *Miura Kiyoshi*

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 新日鐵(現 日本製鉄)に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。



【パネルディスカッション】【第1部】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

【パネルディスカッション】【第2部】

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

石川 貴之 *Ishikawa Takayuki*

【パネリスト】

(株)日建設計総合研究所 理事

プロフィール 1987年日建設計入社。京セラドーム周辺、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年より(株)日建設計総合研究所にて東アジアを中心に低炭素都市業務に従事し、近年は官民連携の海外展開支援の仕事を中心にロシアにおけるスマートシティ計画にも携わっている。山口県出身。学生時代はバスケットボール一色。今年は3年連続10,000歩/日以上を目標に闘歩中。

平石 和昭 *Hiraishi Kazuaki*

【パネリスト】

(株)三菱総合研究所 参与/プラチナ構想ネットワーク 事務局長

プロフィール 1984年東京大学工学部土木工学科卒業。同年株式会社三菱総合研究所に入社。地域開発、交通計画、天然ガスパイプライン計画、海外事業(経済協力など)、マクロ経済、データサイエンスの各分野業務を歴任。MRIリサーチアソシエーツ副社長を経て、現在はプラチナ構想ネットワーク事務局長。趣味はゴルフ、テニス、音楽鑑賞。博士(工学)、技術士(建設部門)。

三浦 潔司 *Miura Kiyoshi*

【パネリスト】

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 新日鐵(現 日本製鉄)に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。

坪内 孝司 *Tsubouchi Takashi*

【コーディネーター】

筑波大学教員 システム情報系教授/教学デザイン室長

プロフィール 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。専門はロボット工学。特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が主テーマ。2018年より教育企画室長、2020年より教学デザイン室長。本講義もこの室長関連の仕事で関与している。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダーの演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

講義概要 グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

第2回
10/10
【土】
13:30~16:30

国内・国際経済の最近のトピックス

中村 宏之 *Nakamura Hiroyuki*

読売新聞大阪本社編集委員

プロフィール 1991年慶應義塾大学経済学部卒、読売新聞東京本社入社。経済部、政治部、ロンドン特派員、ハーバード大学国際問題研究所研究員、経済部デスク、調査研究本部主任研究員などを経て、2017年11月より現職。主な著書・共著に『おさえておきたい平成の経済 「令和」経済のトレンドを読む』(山川出版社)、『御社の寿命』、『地元の力を生かす「ご当地企業」』(中央公論新社)など。

講義概要 経済のニュースは日常生活や将来の就職先を選ぶにあたって重要であるにも関わらず、学生の皆さんには苦手意識を持つ人が多いようです。その理由はシンプルです。ごく基本的な知識が不足しているために、経済ニュースを縁遠くしているからです。本講義では、直近の国内外の経済ニュースのトピックをとりあげて、それらの基本的な知識や内容を解説しつつ、日本や世界にもたらす意味を考えたいと思います。

未来の国土づくりを担う皆さんへ

森 昌文 *Mori Masafumi*

国土交通省 顧問

プロフィール 1981年建設省入省。米国連邦運輸省道路庁、土木研究所ITS研究室長、近畿地方整備局長を経て、道路局長、技監、事務次官を歴任。入省後に「交通需要」に関する論文で博士号を取るなど交通全般にも明るい。東京大学、京都大学、日本大学、立命館大学等の客員教授も務める。リラックスする時に使う「お香」にも詳しい。

講義概要 我が国の持続的な経済成長や安全・安心で豊かな国民生活の実現は、今までも、そしてこれからも国土交通行政に携わる者のミッションである。国土交通省のトップとして国土づくりに携わる立場から、我が国が現在おかれている状況とそれへの対応、未来の国土づくりの可能性とそれを担う将来のシビルエンジニアへの期待を語る。



貢献できる輝く人材の育成

日本外交の現状と課題

森 健良 *Mori Takeo*

外務省 外務審議官

プロフィール 1983年外務省入省。在ドイツ日本国大使館参事官、国際法局条約課長、外務大臣秘書官、北米局北米第一課長、総合外交政策局安全保障政策課長、総合外交政策局総務課長、在アメリカ合衆国日本大使館公使、経済外交担当大使、北米局長などを歴任し、2018年1月より現職。東京都出身。趣味：ゴルフ、テニス。

講義概要 中国が台頭し、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交が直面する課題について紹介する。

企業経営の現状・課題と戦略

十河 英史 *Sogoh Eiji*

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

プロフィール 1989年新日本製鉄(株)(現・日本製鉄(株))入社。本社および複数製鉄所において営業、人事・総務等を担当後、2017年4月より薄板営業部長、2019年4月より執行役員人事労政部長。(公社)東京労働基準協会連合会 理事、中央職業能力開発協会 理事。

講義概要 本講義では、下記を中心に紹介し、日本のものづくりが目指す成長戦略について考察してみたい。①「鉄」という素材の多様な特性・魅力②オイルショック・プラザ合意以降の超円高・リーマンショックなどの幾つもの危機を日本の鉄鋼業が如何にして乗り越えてきたかの事例③今後想定される日本鉄鋼業を取り巻くグローバルイズムへの対応・CO2問題・少子高齢化等の課題への取組み

第3回

10/17
[土]

13:30~16:30

日本の宇宙政策について

松尾 剛彦 *Matsuo Takehiko*

内閣府宇宙開発戦略推進事務局長

プロフィール 経済産業省大臣官房会計課長、資源エネルギー庁総合政策課長、電力・ガス取引監視等委員会事務局長、大臣官房審議官(通商政策局担当)等を経て、昨年7月から内閣府宇宙開発戦略推進事務局長。東京都出身。座右の銘は、信は万事の基をなす。

講義概要 近年、①GPSや衛星データの利用拡大など社会システムの宇宙依存の深化、②国際競争の激化、③内外における新興企業の台頭、④月面を含む宇宙活動領域の拡大等、我が国の宇宙政策を取り巻く環境は大きく変化している。こうした状況を踏まえ、どのように我が国の宇宙開発・利用を支える産業・科学技術基盤を維持・強化し、安全保障の確保や経済成長の実現を図るべきか、宇宙政策のとりべき方向性について議論する。

日本の安全保障環境と防衛政策

鈴木 敦夫 *Suzuki Atsuo*

防衛省 整備計画局長

プロフィール 1985年防衛庁入庁。米国立大学国家戦略研究所客員研究員、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官、情報本部副本部長、防衛政策局次長、統合幕僚監部総括官、政策立案総括審議官などを経て現職(いずれも当時の名称)。

講義概要 現在、我が国を取り巻く安全保障環境は、極めて速いスピードで変化している。その中において、我が国が独立国家としての責任をしっかりと果たしていくことこそが、我が国の安全保障の基軸である日米同盟の抑止力・対処力を一層強化し、安全保障協力を戦略的に進めていくための基盤となる。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。

第4回

11/21
[土]

13:30~16:30

地方自治の重要性とは何か?

森 民夫 *Mori Tamio*

前長岡市長/元全国市長会 会長

プロフィール 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。現在、一般社団法人地方行政リーダーシップ研究会代表理事を務める。

講義概要 グローバルに活躍できる人材とは、同時に現場の実態等のローカルな視点を併せ持つ人材である。国と地方の関係も同様であり、人口減少の進行、インフラの老朽化、頻発する自然災害等の諸課題に適切に対応するためには、国によるグローバルな政策と地方によるローカルな政策との調和が必要不可欠である。この視点について、長岡市の現場に即した政策、「子育ての駅」や「アオーレ長岡」等のユニークな政策を事例に解説し、地方自治の重要性について具体的に考える。

第5回

12/5
[土]

13:30~16:30

【パネルディスカッション】我が国が直面する構造改革と社会資本整備

中村 浩之 *Nakamura Hiroyuki*

パネリスト

株式会社みずほ銀行 執行役員 産業調査部長

プロフィール 1992年京都大学経済学部卒業、日本興業銀行入行(現みずほ銀行)。審査部門、営業部などを経て、2016年みずほ銀行産業調査部副部長、2019年4月産業調査部長、2020年4月より現職。産業調査部では、国内外で160名の部員を率い、約40の産業に関する調査・提言活動を統括。

中原 淳 *Nakahara Jun*

パネリスト

国土交通省 建設流通政策審議官

プロフィール 本籍熊本県、大阪育ち、昭和62年東大法卒、同年旧建設省入省。公共事業の入札改革や道路公団等の民営化等に携わった他、ニューヨーク総領事館で米国政治、静岡県庁でまちづくりを担当。その後、人事課企画官や大臣秘書官等を経て、PFI/PPP担当の官民連携政策課長、インフラ老朽化対策等を担当する参事官、道路局総務課長、首都高速道路(株)取締役、地方創生推進事務局審議官を経て現職。

森 民夫 *Mori Tamio*

パネリスト

前長岡市長/元全国市長会 会長

プロフィール 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。現在、一般社団法人地方行政リーダーシップ研究会代表理事を務める。

坪内 孝司 *Tsubouchi Takashi*

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授/教学デザイン室長

プロフィール 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。専門はロボット工学。特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が主テーマ。2018年より教育企画室長、2020年より教学デザイン室長。本講義もこの室長関連の仕事で関与している。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダーの演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

春BC 0A00402

テクノロジーとグローバルで拓く未来



未来を拓いて行く為には、グローバルに考え・行動する事と、テクノロジーの活用（特にDisruptive Technology）が重要である。

世話教員 ● 坪内 孝司（教学デザイン室長、システム情報系・教授） ● 石田 東生（特命教授）他

担当教員

高原 勇 *Takahara Isamu*

内閣府 大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）
筑波大学特命教授、慶應義塾大学特別招聘教授

プロフィール 1988年トヨタ自動車株式会社入社。クラウン、レクサスGSなど新型車両の設計開発を担当。グローバル開発、設計革新の全社リーダー、BR-VI室長、VA開発部長を経て、筑波大学未来社会工学開発研究センター長を兼務。現在は内閣府大臣官房審議官として、科学技術・イノベーションを担当している。筑波大学特命教授、慶應義塾大学特別招聘教授。

キーワード

自動運転、水素燃料電池自動車（FCV）、MaaS、Society5.0、スマートシティ

第1回
6/3
【水】
13:00~

● モビリティイノベーションの社会応用

筑波大学
筑波キャンパス

CASEと呼ばれる次世代モビリティの技術革新について情報共有をしたうえで、産業競争力懇談会での提言策を分析しながら、グループワークによる自身の考えからモビリティ社会像を描く演習を実施。

第2回
6/17
【水】
13:00~

● デジタルスマートシティの社会実装

筑波大学
東京キャンパス

政府のスマートシティ、スーパーシティに係る政策動向と産業競争力懇談会が提言するデジタルスマートシティ構想について情報共有をしたうえで、グループワークによる自身の考えから研究学園都市におけるスマートシティ像を描く演習を実施。

第3回
7/1
【水】
13:00~

● モビリティイノベーションとスマートシティから描く未来社会像

筑波大学
筑波キャンパス
又は
東京キャンパス

第1回、第2回の講義を通して検討した内容を前提に、モビリティ、スマートシティを統合する未来社会像と科学技術政策と国家像についてグループワーク、パネルディスカッションを実施。パネルには最前線で活躍する有識者の参加を予定。



写真は昨年度までの授業風景です。

秋AB OA00401

流動化する世界とこれからの日本



混迷の度を深める世界の中で日本は？ 難局に立ち向かう皆さんの決心は？

世話教員 ● 坪内 孝司 (教学デザイン室長、システム情報系・教授) ● 石田 東生 (特命教授) 他

担当教員

平井 龍太郎 Hirai Ryutaro

筑波大学客員教授
双日(株) 副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

プロフィール 1982年日商岩井(株)入社。双日(株)米国法人・経営企画部長、人事総務担当役員、アジア・大洋州総支配人、営業管掌役員などを経て2020年4月より現職。福岡県北九州市出身。海外駐在は中国(北京)、米国(ニューヨーク)、シンガポールで通算12年。お酒とゴルフを嗜まない、商社マン・スタンダード逸脱モデルの人材。退任後の夢は、恵まれない子供達の教育。

講師

11/11【水】

橋本 政和 Hashimoto Masakazu

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員 エネルギー・社会インフラ本部長

プロフィール 1990年日商岩井(株)入社。愛知県出身。入社後は物流部隊に配属され、初出張は2年目の西アフリカ。1000km超の行程を野宿しつつ輸送監督として走破。その後はロシア衛星通信網の構築、米国駐在中にはトヨタ生産方式の普及活動、2011年インフラ事業へ転身、鉄道や再生エネルギー事業に取り組んだ。環境・産業インフラ本部長を経て、2018年4月より現職。私生活では十数年ぶりに下手なゴルフを再開、人より多く歩き、走り回ること運動不足を解消中。

講師

12/2【水】

尾藤 雅彰 Bito Masaaki

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員
金属・資源本部長

プロフィール 1965年生まれ、静岡県出身。1988年に日商岩井入社後は、主に石炭を始めとする金属資源のトレード、開発、事業運営ビジネスに従事し、2016年から石炭・金属本部長、2020年4月より現職。学生時代はサッカー部。今でも時々おじさんサッカーを楽しんでいます。汗をかいた後のビールは最高ですが、怪我だけは避けたいところ。

村井 宏人 Murai Hiroto

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員
リテール・生活産業本部長

プロフィール 1989年日商岩井(株)入社。双日(株)自動車第二部長、経営企画部長、自動車本部長、などを経て2020年4月より現職。京都出身。学生時代は、中学から大学まで常に体育会水泳部に所属し水泳三昧の日々を過ごす。入社後、先進国から途上国まで50か国超を訪問。産業機械や自動車の輸出から事業会社の経営、M&Aまで様々な経験を重ねる。2020年度は新たにリテール・生活産業本部長に就任、より一層生活に密着したビジネスに挑戦中。

キーワード

- ・世界の動きを知り、日本の位置付けを認識し、これからの自らの生きる道を探る。
- ・社会の潮流に対する知見と分析力を積み上げていく契機とする。

第1回
10/22
【木】
13:00~

筑波大学

- 自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話
- 講義「世界経済の変化における日本の産業論と商社活動」と全員参加による議論

第2回
11/11
【水】
13:00~

筑波大学

- パネルディスカッション
テーマ①：「インフラビジネスにおけるビジネス構築の機能と課題」
講師：橋本 政和 (双日(株) 執行役員 エネルギー・社会インフラ本部長)
コーディネーター：平井 龍太郎

- 事前に提起された課題と発表・議論

第3回
12/2
【水】
13:00~双日(株)
本社21階

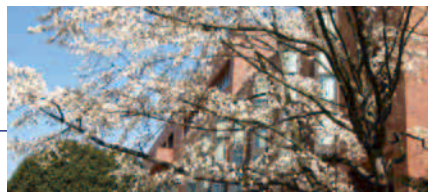
- パネルディスカッション
テーマ②：「日本における資源ビジネスの位置付けと課題」
講師：尾藤 雅彰 (双日(株) 常務執行役員 金属・資源本部長)
テーマ③：「グローバルビジネスにおける日本企業の競争力の変遷と課題」
講師：村井 宏人 (双日(株) 執行役員 リテール・生活産業本部長)
コーディネーター：平井 龍太郎

- ラップアップ・セッション (ゼミ全体の振り返り)

(17:30 ~ 双日社内カフェテリアにて双日社員も参加したカジュアルなレセプションを開催予定)

学生の声 Student's Voice

総合科目（学士基盤科目） 社会基礎学Ⅰを受講して



人文・文化学群 日本語・日本文化学類 **布花原 楓** Fukahara Kaede

出席学生
の声
Student's
Voice 01

この講義では各界で活躍する先達から話を聞ける

この講義を受講しようと思った契機はいくつかあるが、知的好奇心を刺激されたという点が最も大きい。また、自身の所属する学群・学類が開設する講義では聞けないような話に触れられるだろうと思ったことも受講を決めた理由の一つだ。個人的には、国際協力を扱った回で出た「発展途上国の支援には物質的支援や技術の教授よりも知識や技術の共有が重要」という話が、

それまでの自身では思いつかなかった視座を得られたため印象に残っている。また、この講義では各界で活躍する先達から話を聞けるため、様々な知見も得られた。特に「コミュニケーションでは『論理・情熱・普段の行い』を大事にしろ」という話は今後の生活に役立てていきたいと感じた。

社会・国際学群 社会学類 **中澤 那由多** Nakazawa Nayuta

出席学生
の声
Student's
Voice 02

大学での学びの第一歩として大変有意義な講義

私は「地方の活性化」に興味があるため、社会基礎学という講義名に惹かれて受講を決めました。もともと興味があったということもあり「グローバル化」や「地方の活性化」について勉強してきたつもりでしたが、講義を受けることで多くの新たな視点が生まれ、今までの自分の考えの浅さが分かりました。やはり、実際に各界の最前線で活躍されている方々のお話を聞くことに

は、机上の勉強では得られないものがありました。しかし、そのような方々のお話を聞ける機会はなかなかありません。したがって、この講義は知見を広げる減多にないチャンスだと思います。今後の大学での学びの第一歩として大変有意義な講義でした。

生命環境学群 生物学類 **佐藤 綾香** Sato Ayaka

出席学生
の声
Student's
Voice 03

将来に必ず役立つ講義

世界で活躍する人たちの貴重なお話を聞けるということで、この講義を受講しようと思いました。この講義では、自動運転技術や都市デザイン、経営についてなど、幅広い分野のお話を聞くことができます。また、グローバル化社会の講義では、国際協力をするうえで、グローバル人材になるために、私たちに

求められていることを学ぶことができます。どの講義も新鮮で、自分の将来に直接的に役立つ講義だと思います。自分の将来が見えていないという人は自分の将来について見つめる良い機会になると思うので、ぜひこの講義を受講してみてください。

理工学群社会工学類 **菅野 恭花** Kanno Kyoka

出席学生
の声
Student's
Voice 04

遠い世界のことだと思っていたことが意外にも身近であると実感

本講義の受講を決めた主な理由は、普段ではかかわることのできない講師陣が私たちの世代に向けた授業をしてくださることが魅力的に感じたからです。私は「都市」について興味があったので本講義で、省庁、不動産業界、また他分野の企業からの意見を聞いたことは非常に貴重でした。自主的に調べる際はどうしてもその業界にのみ注目してしまうので視野を広げるい

い機会になったと思います。講義内容は少し難しいものもありましたが、講師の方々が自身の体験談などを交えて説明してくださり、世界で起きている出来事や問題など、今まで遠い世界のことだと思っていたことが意外にも身近であると実感しました。

情報学群 情報科学類 **鈴木 貴裕** Suzuki Takahiro

出席学生
の声
Student's
Voice 05

他の講義では得られない考え方を必ず学ぶことができる

殆どの大学の授業は、研究者、すなわち学界出身の講師が行う。一方で、社会基礎学は、産業界や官界出身の講師が登壇するため、新しい考え方を知ることができるのではないかと思います。受講を決めた。社会の最前線で活躍する講師の貴重な話を聞けることはもちろんであるが、この講義の最大の魅力は、講師と議論できる時間が長く、また、授業後に質問でき

ることにある。やる気を持って講義に臨めば他の講義では得られない考え方を必ず学ぶことができる。私が特に印象に残っているのは、大学で都市工学を学んだのち不動産会社に就職した講師の話である。大学で学んだことをどのように実社会に活用するかの例として、とても参考になった。

芸術専門学群 **土田 日駿** Tsuchida Hitoshi

出席学生
の声
Student's
Voice 06

産業界・官界トップリーダーの思考のプロセスを知ることができた

私は産業界・官界という今の自分から遠い分野について学べることに魅力を感じ、受講することを決めました。この分野に進むつもりがなくとも見聞を広げることができる点において、本講義は非常に有意義なものであると思います。多岐に渡る分野のいずれもが質の高いものでした。特に講義を通じてトップリーダーの考え方を学べたことが興味深かったです。形になって社会に

現れたものは調べれば出てきますが、そこでどのような思考のプロセスを踏んだのかは受講しなければ知ることはできませんでした。今後は、ここで得られた知見や価値観を自らの分野に落とし込み、新たな形で出力していけるようにしたいと思います。

社会・国際学群 国際総合学類 **山本 一葉** Yamamoto Kazuha

出席学生
の声
Student's
Voice 07

世界を舞台に活躍されている方々の警咳に接することができる

将来海外での仕事を視野に入れている私は、「グローバル人材」「教養」というワードに惹かれ、「社会基礎学～グローバル人材に不可欠な教養I」を受講しました。大学生活、特に筑波大学では、社会と直に関わる場が少ないように思います。なので、各業界のフロンティアに立ち、世界を舞台に活躍されている方々

の警咳に接することが学内でできるのはとても貴重な機会でした。また、講義全体を通して、現在のグローバル社会に対応するだけでなく、世界を牽引している方たちのお話を踏まえたくて、次世代の私たちが今度はどのような社会をつくるべきかを考えることが必要だと感じました。

人間学群 心理学類 **柄澤 輝** Karasawa Hikaru

出席学生
の声
Student's
Voice 08

これから生きる人材に必要な数々の教養を学べる講義

私は官界や産業界のトップになって世界に挑もうなんて考えていません。ごく一般的な人生に安住できればいいなどと考えています。一方で現実には、専門性の高い機関による分業ネットワークを束ね、現代社会が直面する問題に最前線で挑んでいるトップリーダーが確かに存在します。その視野は当然世界を見据え、知見は学際的です。そんな方々と直接お会いし、議論できる機

会は貴重です。Society5.0やSDGsなどの聞き慣れない単語が飛び交う講義で日本の将来を考えていると、自分も最前線で共闘している気分になりました。グローバル化した現代では国際問題も身近であることを自覚し、これから生きる人材に必要な教養の数々を学べます。

学生の声 Student's Voice



総合科目Ⅲ（学士課程3・4年次生対象） 社会基礎学Ⅱを受講して

社会・国際学群社会学類 阿部 竜也 Abe Tatsuya

出席学生
の声
Student's
Voice 09

一単位とは思えないほど深い学びを得られる講義

本講義は、日本のみならず世界各地で活躍する各界のトップリーダーから直接お話を伺える大変貴重な経験のできるものであり、毎回の質疑応答やパネルディスカッションにおいて学生も主体的に講義に参加することで自らの知を深めることのできるものとなっております。本講義は、普段ニュース等で目にする「グローバル化」「外交問題」「環境問題」について深く知る

ことができ、自分の知見を広げるきっかけにもなりました。また、講義を得られた知見は、自分の卒業論文や就職活動にも生かすことができ、一単位の講義とは思えないほど深い学びを得ることができます。ぜひみなさんも講義に参加し、自分の知見を広めてみてください。

理工学群 応用理工学類 島 一成 Shima Issei

出席学生
の声
Student's
Voice 10

幅広い視野と新しい考え方が得られる価値のある時間

私は友人に誘われてこの講義に興味を持ち、受講しました。講義を通して今後の学生生活をどう過ごすかを考えるきっかけになりました。実際に社会を動かす様々な分野の方の話は、普段の生活では知ることのできないようなことばかりで、面白かったです。話を聞くと、将来「グローバル」かつ「ローカル」に活躍したいという気持ちが高まりました。そして、そのためにも自分

の専門性を高めるだけでなく、文系・理系にとらわれることのない幅広い知識を身につけていくことも大切だと感じました。講義は休日に行われましたが、幅広い視野と新しい考え方が得られ、価値のある時間を過ごせたと思います。

理工学群 応用理工学類 落合 祐介 Yusuke Ochiai

出席学生
の声
Student's
Voice 11

将来設計の指針の一助となること間違いなし

日本の総人口が減少しており2055年には1億人を割り込むと言われている今、地方の衰退、移民問題、マーケットの縮小など、多くの課題を耳にするようになってきました。それらの課題に対して最前線で取り組んでいる方々の貴重な話を伺えるまたとない機会と感じ、この講義を受講しました。「グローバル化」というキーワードを軸にして私達が目指すべき将来像や、その実

現に向けて将来を担っていく私達が学生の今何を学び、考えればよいかについて多角的な視点を与えてくれる毎回の講義はとても刺激になりました。これから先、激しく変化する世の中を力強く生きていくために不可欠な将来設計の指針の一助となること間違いないので、是非受講してみたいかかでしょうか。

情報学群知識情報・図書館学類 齊藤 幸乃 Yukino Saito

出席学生
の声
Student's
Voice 12

1つの科目で多くの情報を得られることが、この講義の最大のメリット

私がこの講義を受講すると決めた理由の一つに、幅広い分野の講師の方々からお話をうかがうことができるというものがありました。リレー講義を受けていく中で、時には、少し難しいというように感じるテーマもありました。けれども受講を終えた今、普段TVで流し聞いていた、あるいは新聞で流し読んでいた日本

だけではない、グローバルな舞台上で起こる出来事の記事について、「この話題を知っている」と思えるようになり、少しばかり自分の見聞が広がったという実感があります。このように1つの科目で多くの情報を得られることが、この講義の最大のメリットだと思います。

大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッションコースを受講して

人文社会科学部 国際公共政策専攻

佐久間 大介 *Sakuma Daisuke*

出席学生
の声
Student's
Voice 13

グローバルな社会課題を多角的に見る

日本や世界が抱える社会課題を、ビジネスの世界ではどのように考えているのかについて興味があり、受講を決めました。講義では、様々な社会課題について、多岐にわたる総合商社の事業と結び付けながら理解を深めました。普段の研究活動にはないビジネスならではの問題意識や将来の展望をその最前線に立つ方々と考えることができました。また、自身のキャリア形

成についても考えることのできる機会が多々あり、有意義なディスカッションができるのも魅力的でした。常に変化する事象や物事に対して、その本質を見極める大切さを問い続ける本講義の内容は、進路や就職先に関係なく、学生にとって貴重な機会であると思います。

人間総合科学研究科 教育学専攻

野村 祐介 *Nomura Yusuke*

出席学生
の声
Student's
Voice 14

全体を通して非常に質の高い講義

技術革新が著しい現代社会において、具体的にどのようなことが生じているかを学びたいという知的好奇心から高原ゼミを受講しました。講義では自動運転技術や燃料電池自動車それ自体に加え、それらの社会応用可能性について広く深く学ぶことが出来ました。特に現在の生活枠組みを根底から変革する可

能性を秘めたトヨタ自動車の「e-Palette Concept」について、トヨタ自動車の社員でもある高原先生と直接お話し出来たことは非常に有意義でした。加えて他の受講生との議論を通して得た学びも多く、全体を通して非常に質の高い講義であったと感じています。

システム情報工学研究科 社会工学専攻 サービス工学学位プログラム

野口 宇宙 *Noguchi Takahiro*

出席学生
の声
Student's
Voice 15

産学官融合の最前線を考えることができる

私がこの講義を受講した理由は、将来の日本像を考える上での産学官連携というキーワードに興味を惹かれたからです。本講義は、産業界を牽引する先生から前提知識となる講義を受けた上で、先生と学生を交えたディスカッションを通して幅広く未来の社会像について考えられることが特徴だと考えます。通

常の講義では、自分の専門分野内での発想に偏りがちですが、本講義では様々な分野を背景に持つ学生、さらには社会人学生も参加しており、広い知見を得ることができました。また、ディスカッション能力の向上だけでなく、自分の専門分野がどのように未来社会に結びつくのかを考える良い機会にもなりました。

生命環境科学研究科 生物資源科学専攻

貴志 雅哉 *Kishi Masaya*

出席学生
の声
Student's
Voice 16

世界を相手にビジネスをしている方々の生の声を聞き、議論が出来る機会

私は「価値観や文化の異なる世界の人々」を相手にビジネスをしている方々の考え方を学び、議論を交わしてみたいと思い、この講義を受講しました。講義は毎回、グローバルビジネスの現場のお話を聞くことができ、非常に刺激的なものでした。また、自分の専攻の講義だけでは絶対に得られない広い知見と、今後の日本経済を真剣に考える良い機会を得ることが出来ました。

今後は、ここでの経験を就職活動や研究に活かしていきたいと考えています。世界を相手にビジネスをしている方々の生の声を聞き、議論が出来るという機会は滅多にないことだと思います。世界で活躍したい、日本を引っ張っていきたいと考えている方はぜひ受講してみてください。

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

<p>総合科目 (学士基盤科目)</p> <p>春C</p> <p>社会基礎学Ⅰ 「グローバル化」と「地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成</p> <p>オーガナイザー 坪内 孝司 他</p>	<p>第1回 7/4 [土] 9:50~18:00</p>	<p>[導入講義Ⅰ] 筑波大学におけるグローバル人材育成方針</p> <p>徳永 保・坪内 孝司</p>
		<p>[導入講義Ⅱ] 連続リレー講義の意味・意義と狙い</p> <p>三浦 潔司</p>
		<p>[パネルディスカッション] [第1部] グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?</p> <p>[パネルディスカッション] [第2部] 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?</p> <p>吉村 麻央・太田 誠 徳永 保・三浦 潔司</p>
		<p>総合商社とサステナビリティ</p> <p>島崎 豊</p>
		<p>国際協力の考え方、およびその実践を通じた グローバル人材の必要要素について</p> <p>坂本 威午</p>
	<p>第2回 7/11 [土] 11:00~17:50</p>	<p>自然資本を活用した地域経営</p> <p>石崎 晶子</p>
		<p>モビリティ革命とMaaS (マース)</p> <p>牧村 和彦</p>
		<p>グローバル化と戦争</p> <p>沢井 俊光</p>
		<p>都市開発とエリアマネジメントの実践 ～日本橋エリアを事例として～</p> <p>雨宮 克也</p>
	<p>総合科目Ⅲ</p> <p>秋AB</p> <p>社会基礎学Ⅱ 「グローバル化」と「地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成</p> <p>オーガナイザー 坪内 孝司 他</p>	<p>第1回 10/3 [土] 13:30~16:30</p>
<p>[パネルディスカッション] [第1部] グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?</p> <p>[パネルディスカッション] [第2部] 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?</p> <p>石川 貴之・平石 和昭 三浦 潔司</p>		
<p>第2回 10/10 [土] 13:30~16:30</p>		<p>国内・国際経済の最近のトピックス</p> <p>中村 宏之</p>
		<p>未来の国土づくりを担う皆さんへ</p> <p>森 昌文</p>
<p>第3回 10/17 [土] 13:30~16:30</p>		<p>日本外交の現状と課題</p> <p>森 健良</p>
		<p>企業経営の現状・課題と戦略</p> <p>十河 英史</p>
<p>第4回 11/21 [土] 13:30~16:30</p>		<p>日本の宇宙政策について</p> <p>松尾 剛彦</p>
		<p>日本の安全保障環境と防衛政策</p> <p>鈴木 敦夫</p>
<p>第5回 12/5 [土] 13:30~16:30</p>		<p>地方自治の重要性とは何か?</p> <p>森 民夫</p>
		<p>[パネルディスカッション] 我が国が直面する構造改革と社会資本整備</p> <p>森 民夫・中原 淳 中村 浩之</p>

世界に挑む産業界トップリーダーによる 大学院アドバンスト・ディスカッションコース

<p>春BC</p> <p>テクノロジーと グローバルで拓く未来</p> <p>担当教員 高原 勇</p>	<p>第1回</p> <p>6/3 [水] 13:00~</p>	<p>モビリティイノベーションの社会応用</p>	<p>高原 勇</p>
	<p>第2回</p> <p>6/17 [水] 13:00~</p>	<p>デジタルスマートシティの社会実装</p>	<p>高原 勇 他</p>
	<p>第3回</p> <p>7/1 [水] 13:00~</p>	<p>モビリティイノベーションとスマートシティから描く 未来社会像</p>	<p>高原 勇 他</p>
<p>秋AB</p> <p>流動化する世界とこれからの日本</p> <p>担当教員 平井 龍太郎</p>	<p>第1回</p> <p>10/22 [木] 13:00~</p>	<p>自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話</p> <hr/> <p>講義「世界経済の変化における日本の 産業論と商社活動」と全員参加による議論</p>	<p>平井 龍太郎</p>
	<p>第2回</p> <p>11/11 [水] 13:00~</p>	<p>パネルディスカッション</p> <p>テーマ①: インフラビジネスにおけるビジネス構築の機能と課題</p> <hr/> <p>事前に提起された課題と発表・議論</p>	<p>平井 龍太郎 橋本 政和</p>
	<p>第3回</p> <p>12/2 [水] 13:00~</p>	<p>パネルディスカッション</p> <p>テーマ②: 「日本における資源ビジネスの位置付けと課題」</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>テーマ③: 「グローバルビジネスにおける日本企業の競争力の変遷と課題」</p> <hr/> <p>ラップアップ・セッション</p>	<p>平井 龍太郎 尾藤 雅彰 村井 宏人</p>

■ 総合科目 (学士基盤科目)

社会基礎学Ⅰ

■ 総合科目Ⅲ (学士課程3・4年次生対象)

社会基礎学Ⅱ

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

世界に挑む産業界トップリーダーによる 大学院アドバンスト・ディスカッションコース

受 講 案 内

2020

■ 大学院共通科目

テクノロジーとグローバルで拓く未来

■ 大学院共通科目

流動化する世界とこれからの日本